クローズアップ診療科

～栄養科～

●伊藤　舞　●原田　奈央
●澁谷有紀子

３名全員が管理栄養士の資格を持つ栄養科では、外来患者さんの栄養指導と入院患者さんの栄養状態の改善に関する業務を行っています。具体的には、ドクターの指示に従い、糖尿病や生活習慣病の方、妊婦さんの肥満解消、赤ちゃんの離乳指導、嚥下困難な高齢者の方など、幅広い患者さんの食事をサポートし、栄養状態を改善していきます。「食事」は人間の最も基本的な行為であり、食事によって病気が改善したり、場合によっては未然に防ぐこともできますので、栄養指導もやはり医療の一環といえます。

私たちが接する患者さんは、年齢が幅広く、症状もさまざまです。

また、食事に関する好みも違いますので、一人ひとりの症状や好みに合わせて食事を変えなければならず、その対応が最も難しい部分です。そのような工夫を重ね、私たちが指導した食事を食べて、患者さんに「おいしい」と言っていただいた時が、やはり一番うれしいですね。食事によって医療的な面での症状改善を目指すことは当然ですが、「おいしい」と言っていただけることで、自分たちの〝気持ちの部分〟が患者さんに伝わったように感じられ、この仕事にやりがいを感じる瞬間でもあります。

今後も３人で力を合わせて、できるだけ一人ひとりの患者さんに対応できる栄養指導を行っていきたいと思います。

●JR舞子駅・山陽電車 舞子公園駅から
53・54系統 学園都市駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分

●神戸市営地下鉄　学園都市駅から
53・54系統 舞子駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分

●JR垂水駅・山陽電車 山陽垂水駅から
2系統清水が丘行 清水が丘停留所下車

医療法人 薫風会　佐野病院
SINCE 1888
〒655-0031　神戸市垂水区清水が丘2-5-1
TEL：078-785-1000　FAX：078-785-0077
編集・発行：地域医療連携室
診療科目：内科、消化器科、外科、肛門科、
整形外科、産婦人科、小児科、
リハビリテーション科、放射線科
URL：http://www.sano-hospital.or.jp/

理念

医　地域医療への貢献　患者さんの立場に立った医療
経　健全な経営　着実で前向きな病院の発展
倫　悔いなき職場　生活と人格の向上

方針

1.私達は、患者さんの病を癒し、苦しみを和らげ、延命に努めることを誓います。
2.私達は、患者さんの人格・人権を尊重し、合意を旨とし、信頼に応えることを誓います。
3.私達は、法を遵守し、過誤を防ぎ、生涯、医の知識と技術の研鑽に励むことを誓います。
4.私達は、職員相互の職分を理解し、尊敬し、協力して患者さんの医療に当たることを誓います。

SANO HOSPITAL NEWS

医療法人 薫風会　佐野病院
SINCE 1888
編集・発行：地域医療連携室

March 2009　3

URL：http://www.sano-hospital.or.jp/

肝臓、胆道、すい臓分野のがん治療について

～消化器治療No.1病院を目指して～

佐野病院 内科部長　**佐野　亙**

佐野病院では、最新の医療機器による検査と診断ができる消化器センターを整備し、主に消化器系のがん治療に対して最先端の治療を行っています。

そんな中、今後強化を図っていく必要があるのが、肝臓・胆道・すい臓に対するがん治療です。

消化器センターの更なる発展のため、今後の肝臓・胆道・すい臓に対するがん治療について考えます。

■消化器治療NO.1病院となるために

消化器は通常、肝臓・胆道・すい臓、および消化管と、大きく2つに分類されます。肝臓・胆道・すい臓と消化管では、同じ消化器といっても治療のために必要な知識や治療方法などが大きく異なることが理由です。

消化管の治療については、すでに国内トップレベルの治療を行っている当院ですが、今後は、肝臓・胆道・すい臓の治療においても高度な医療を提供できるよう、設備の充実をはじめ、医療技術のレベルアップを目指していく必要があります。そのために、今まで多くの病院で、消化器を中心とする幅広い内科治療を行ってきた私の経験が役に立てばと考えています。

胃がんや大腸がんに比べると、胆道・すい臓がんは数としては少ないですが、早期発見が難しく、ある程度がんが進行してから発見されるケースが多いという特徴があります。

私は糖尿病専門外来も行っていますが、すい臓がんが原因で糖尿病になる方もおられますし、遺伝などの関連性もあるため、少しでもリスクがあると判断した方には検査をお勧めしていますが、やはり定期的に検査を受けることが、最も重要だと思います。

■肝臓・胆道・すい臓のがん治療とは

現在、肝臓がんに対する局所治療は、電極の針をがんに刺し、数分から10数分かけてがんを焼く「ラジオ波治療」が主流となっています。また、胆道・すい臓がんに関しては、エコーや側視鏡などによって検査を行い、閉塞性黄疸がみられる患者さんには、“ステント”という器具を用い、閉塞している部分を拡げる治療を行います。

これらの治療は一通り経験してきましたが、まだ十分な臨床数があるとは言えません。今後はこの分野に関する技術をより高め、多くの患者さんの治療を行うことで、肝臓・胆道・すい臓治療においてもレベルアップを図り、「消化器治療といえば佐野病院」と言っていただけるような病院、また消化器センターにしていきたいと考えています。

佐野　亙（さの わたる）

東京慈恵会医科大学出身（平成6年卒）。兵庫県立成人病センター（現在の兵庫県立がんセンター）、新日鐵広畑病院（姫路市）、甲南病院（東灘区）、IHI播磨病院（相生市）など、数多くの病院で消化器を中心とした内科治療の経験を積む。これまでの経験を生かし、当院の消化器センターの更なる強化に取り組んでいる。「自分が主治医の患者さんは、消化器疾患だけでなく、どんな病気であってもできる限り診てあげたい」と幅広い診療を目指している。

いよいよスタート
レディース検診

佐野病院では、急増している乳がん・子宮がん対策のために、レディース検診をスタートさせます。最新のデジタルマンモグラフィ撮影装置「PURVIEW（ピュアビュー）」を導入し、乳がんと子宮がんの検査を中心とした女性特有の病気に対する精密な検査が可能ですので、ぜひご利用ください。

CONTENTS

特集：抗がん剤治療を考える
患者さまと、とことん向き合う治療を
消化器センター 内科医師 豊田 昌徳先生 ―― P.02

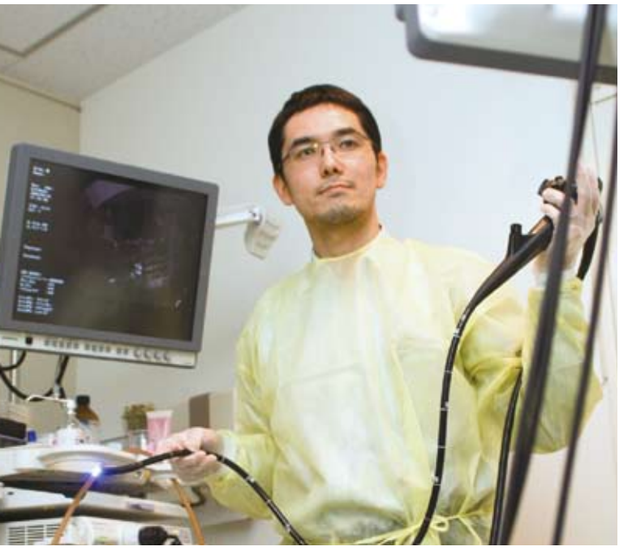
新任ドクターの紹介
消化器センター 内科医師 蓮池 典明先生 ―― P.03

Kiss FM「ホームドクター」出演記録
第2話　胃 潰 瘍 ―― P.02-03

SANO HOSPITAL

抗がん剤治療を考える

特集 患者さまと、とことん向き合う治療を



進化を続ける抗がん剤治療

がんに対する意識・治療方法は、ここ10年ぐらいで大きな変化をみせています。現在は、抗がん剤治療と緩和医療、そして終末期医療の境がなくなりつつありますので、抗がん剤治療を受けながら、普通に生活しておられる方がたくさんいらっしゃいます。

抗がん剤そのものが進化していることもあり、がん患者さんの寿命が確実に延びている今、がん治療を行いながら、いかに充実した時間を長く過ごしていただけるか、ということが私たちの課題であり、責任ではないかと感じます。

当院での抗がん剤治療

当院は大病院とは違い、診療科間の敷居がほとんどありませんので、患者さんの状態に応じて、治療に必要な人材がすぐに集まります。例えば、私が内視鏡手術の手伝いをすることもありますし、抗がん剤治療中の患者さんが食事を取りにくい状態になれば、専門のスタッフが対応してくれます。このフットワークの軽さが、当院の一番の特長だといえます。

素早い対応、臨機応変な治療ができるうえに、技術に関しては大きな病院と遜色がない。そのような、患者さんにとって大変メリットのある抗がん剤治療を提供することが、最大の目標ですね。

治療の基本はコミュニケーション

私は、もともと内視鏡を専門で扱っていましたが、眠った状態の患者さんと接することが多かったため、より患者さんに向き合える治療を行いたいと考えるようになってきました。そこでたどり着いたのが、抗がん剤治療です。どのような治療が患者さま本人、そしてご家族のためになるのかということを、常に考えなければならない抗がん剤治療は、まさに患者さんと向き合える医療分野だと思ったからです。

抗がん剤治療の基本は、やはり人間同士のコミュニケーション。治療方法にも正解というものはなく、患者さん一人ひとり違います。そのため、症状、患者さんの性格、ご家族の考えをすべて理解した上で、最適な治療方法を選択することが求められます。そこが一番難しい部分であると同時に、抗がん剤治療の醍醐味ともいえるのではないでしょうか。

患者さんがつらい時は、ご家族に対する負担も増えてきます。その負担を少しでも軽減できるよう、患者さんにとっても、そのご家族にとってもベストな抗がん剤治療をご提案していきたいですね。

豊田 昌徳（トヨダ マサノリ）
消化器センター 内科医師
2007年4月 佐野病院入職

Information

NEW FACE　　新任ドクターの紹介

上部消化管医療に新たな風を

Profile
蓮池 典明（ハスイケ ノリアキ）
消化器センター 内科医師
2009年1月 佐野病院入職

■上部消化器がん治療を新たな柱に

私は、国立がんセンター中央病院で3年間、静岡県立静岡がんセンターで5年半、上部消化管（胃、食道、咽頭）の内視鏡治療を中心に経験を積み、技術を磨いてきました。

当院は、下部消化管分野においては、全国でもトップレベルの治療が行われていますので、上部消化管分野の治療においても、下部消化管分野に劣らない水準にまでレベルを引き上げ、当院における医療の大きな柱に育てていくのが、今の目標です。

■上部消化器がんの特徴

上部消化管、特に胃に関しては、内視鏡の操作技術を習得することは、それほど難しいものではありません。ところが、胃にはさまざまなパターンの病気があるうえに、胃炎や炎症が背景にあることが多く、診断が非常に複雑であるという特徴があります。

早期発見、早期治療のためには、治療技術はもちろんですが、正確な診断が欠かせません。そのため、上部消化管の治療に関しては、診断という分野に専門性が必要だといえます。

これまで、2つのがんセンターにおいて、診断のトレーニングを十分に積んできた私の経験と技術が、当院の患者さんはもちろん、地域医療のためにも必ず役立つと考えています。

■患者さんに近い医療

小回りが利く医療、患者さんに近い医療が当院の特徴であり、また、私が大事にしたいと考えていることです。実際、患者さんにアンケートを行い、そこでいただいた声を治療に生かすなど、常に新しいチャレンジを行う土壌は整っていると感じます。

また、自分の立場ではなく、患者さんの立場に立って考えることのできるスタッフが多く、医師、看護師、薬剤師、検査技師など、スタッフ間の連携がしっかり取れていますので、よい医療を提供できる環境にあることは、間違いないと思います。

■上部消化器がん対策のために

胃がんは、さまざまな原因で発症するため、予防が難しい病気です。一番確実な予防方法を挙げるとすれば、やはり年に1度、内視鏡検査を受診することにつきます。

今後は仕事が忙しく、普段検査を受けにくい人が受診しやすい検査体制を構築することで、胃がんをはじめとする上部消化管のがん予防に貢献していきたいと考えています。

Kiss FM
「ホームドクター」出演記録

ラジオKiss-FMの「ホームドクター」のコーナーに、毎週金曜日、当院長である佐野寧が出演中です。リスナーの皆さんからの健康に関する質問に、佐野院長が分かりやすくお答えしているこのコーナー。聞き逃した皆さまのために、本紙面においても紹介させていただきたいと思います。

第2話
胃潰瘍

リスナーさんからの質問
もともと胃腸が弱いのですが、最近は仕事がきつくなるたびに胃の痛みを感じます。胃潰瘍はくり返すものなのでしょうか？

Q 最近、胃潰瘍は増えているのでしょうか？
A 特に多くなっているということはありませんが、ストレスが増える仕事が多くなっているなど、日常のスタイルが不規則になると、酸の分泌バランスが崩れ、胃潰瘍や十二指腸潰瘍ができる可能性が増えてきます。

Q 胃潰瘍・十二指腸潰瘍とはどのような病気ですか？
A 胃の粘膜は胃液にさらされているため、分泌する粘液のバランスが、ストレスや多量の飲酒、環境の変化などで波状していき、胃潰瘍が発症します。十二指腸潰瘍も血流やストレスが要因で発生することもありますが、こういう形で潰瘍ができることが多いですね。

Q 発症するのは、何歳くらいの方が多いですか？
A 胃潰瘍は、40～50代に多く、十二指腸潰瘍は30～40代に多いです。若い人だと、20代の人もいますね。

Q どういった症状があるのでしょうか。
A 心窩部痛（しんかぶつう）といって、お腹のおへその上あたりが痛くなります。胃潰瘍、十二指腸潰瘍では、おへその右上辺りが痛くなります。特に潰瘍の場合は、胃酸が分泌してくると痛みを伴い、食事前や空腹時に痛みが増強することが特徴的です。治療方法としては、胃酸を抑える良い薬があるので、それを1日1回飲むことで、次第に治癒していきます。

Q 胃潰瘍の再発率は高いですか？
A 最近では、胃の中にピロリ菌というものが存在することが発見され、今や胃潰瘍は感染症と考えられています。ピロリ菌が存在すると、高い確率で再発しますので、そういう場合は除菌療法を行います。

Q 予防はどうすればいいのですか？
A まずは、規則正しい生活を行うことが大事です。不規則な生活、飲酒、喫煙に加えて、仕事のストレスが外的要因として一般的ですので、規則正しい生活を送ることが、潰瘍の予防につながります。それから、おいしい食事を食べることですね。

次回、第3回は「潰瘍性大腸炎」についてです！